

Title	歴史家の経済学の領域侵入
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎(Takahashi, Seiichiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1925
Jtitle	史学 Vol.4, No.3 (1925. 8) ,p.1(313)- 15(327)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19250800-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19250800-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 史學

第四卷 第參號

大正十四年八月

## 「歴史家の經濟學の領域侵入」

—

英國古典派經濟學は主として演繹的方法に依つて構成せられたるものである。英國經濟學者は、自明の理と看做れたるか、若しくは一般的觀察に由つて呈示せられたる少數の原理を基礎として其の精巧なる正統派經濟學の紀念塔を建設せるものである。而も斯くの如き方法の効果は早くよりして論争せられて居つた。瑞の *Simondi* は經濟學が歴史と觀察との上に基礎を有す可きを信じ、*Ricardo* 及び其の學徒の抽象論と早急なる概括とを承認することを拒んだ。次いで獨の *Hins* は歴史的知識と實際的觀察とを廣く結合して、國民經濟發達の重要な理論を推究した。而して他方に於て其の全體系が一の歴史哲學

であつた佛の社會主義者 Saint-Simon の學徒は經濟的現象をして之れと常に交錯せる政治的及び法律的現象より孤立せしむるの不可能なるを教へた。Saint-Simon の秘書であつた Auguste Comte は又た社會靜學に對する適當なる方法が直接觀察の其れであり、而して社會動學に對する適當なる方法が比較の其れであつて、惟り歴史の援助に依つてのみ遂行せられ得ることを主張した。獨逸に於ては博言學及び古代學は Wolf, Welker, Böckl 及び Müller 歴史は Niebuhr, Ranke. 歴史的法律學及び憲法史は Eichhorn, Savigny, Waiz, Dahlmann, Mommsen, 及び Gneist によつて黄金時代に到達した。斯くの如き時代の影響を受けたる者は最早古き自然法の空虚貧弱なる合理主義的考察と論法とを以て満足することが出来なく爲つた。論理上に於ける世界主義及び永久主義は共に其の信頼を失つた。法律制度は確定的なる社會現象に非ずして、社會進歩の階段を異にするに従つて相違す可きものである。そは之れと共存しつゝある他の社會的要素と不可分の關係を有するものであると觀ぜられた。斯くの如き觀念は又た經濟制度に對しても等しく適用せられ得るの觀があつた。從來の經濟學上の理論と現實の具體的經濟狀態との間には甚しき相違の存することが發見せられた。斯くの如き相違は新たなる問題が發生し、新たなる社會階級が構成せらるゝと共に廣大と爲りつゝあつたのである。然しながら這般の相違は其の經濟狀態が經濟學の郷土たる英國若しくは佛國に存在するものと全然異なる邦家に斯學の原則を適用せんと試みたる際に於て最も良く之れを認めることが出来る。這個理論と實際との隔絶は總べての抽象的理論を悉

く拋棄して、單なる經濟的現象の敘述に斯學を局限するに由つて著しく之れを狹縮することが出来る。斯くの如くして獨逸に歴史派の經濟學を生ずるに至つたのである。

## 二

獨逸歴史學派の根本原理は一千八百四十三年 Wilhelm Roscher によつて幾分の躊躇を以て其の Grundriss zu Vorlesungen über die Staatswirtschaft nach geschichtlichen Methode. 中に表明せられた。次いで Bruno Hildebrand は歴史が惟り經濟學に生命を與へて、之れに完全なる發達を得せしむるのみならず、全然之れを改造するに資することをすら得べきものであると觀た。彼れに従へば、Adam Smith 學派は人間が社會的存在として恒に文明の子にして又た歴史の產物たること及び其の欲望、其の教育、其の人間及び物質に對する關係は悉く同一の状態に在ることなく、地理的に相違し、又た絶えず歴史的に變化し、而して人類の全文化と共に進歩するものなることを全然忘却せるものである。(Die Nationalökonomie der Gegenwart und Zukunft, 1848, S. 29.)。彼れは其の統計學上及び歴史上の特殊研究によつて多大なる暗示を學界に與ふると共に、彼れによつて創刊せられたる Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik. を通じて幾多の青年學者が其の經濟史上の特殊論文を發表す可き最初の機會を與へたのである。而して吾人は Karl Gustav Adolf Knies の Die Politische Oekonomie vom Standpunkte der ge-

schichtlichen Methode, 1853. に於て、少くとも論理的方面に於ては、新學派の最も系統的なる宣言書を看出したのである。彼れに據れば、經濟學の研究對象は歴史的現象界の領域に屬し、而して一般的に考察すれば其の特殊の領土及び其の特殊の法律制度、其の本原的組織及び其の部分的編成、其の永き現世的發展及び同時に相互區別し得可き特殊區域の同種狀態に對する其の衝動力、其の特殊の國家的特化及び其の國際的關係を有する國民の國家的に組織せられたる共同生活の經濟的區域、一切の特殊經濟及び共同團體及び國家の財政を抱有する其の具體的なる（現在をも合して）歴史的現象に於ける國民經濟に存す可きものである。（Ibidem, Neue Aufl., 1883, S. 490, 491.）。

而して此の國に於ては Adolph Wagner が一千八百七十七年の頃に其の Lehrbuch der Politischen Oekonomie. の第一卷を構成する Allgemeine und theoretische Volkswirtschaftslehre. に於て舊經濟學の其れに代る可き經濟學說の新堂宇の建築に着手せるに反し、Gustav Schmoller は斯くの如き企圖を行ふ可き時期の未だ到來せざることを主張し、經驗的、統計的及び歴史的研究の時代が之れに先行せざる可らざることを力説した。Schmoller を以て觀れば、舊歴史的國民經濟學（die ältere historische Nationalökonomie）は屢々世界史の教ふる所のものを理論的に利用せんと欲する事餘りに躁卒なるものであつた。吾人は今や苦心慘憺たる特殊の經濟史的研究によつて初めて國民經濟學的に又た社會政策的に歴史を理解し、國民經濟學的理論の満足なる經驗的建設を行ふ可き恰當なる基底を供することを會得したのであ

る。而して斯くて又た國民經濟の歴史的論述に對する Roscher及びHildebrandの一般的希望よりも寧ろ經濟史的モノグラフィの時代よりして國民經濟科學の一新時代は開始せらるゝものと考へたのである。(Handwörterbuch der Staatswissenschaften, 1901, 2. Aufl., Bd. VII, Artikel Volkswirtschaft, Volkswirtschaftslehre und-Methode, S. 562.)

臆がて舊經濟學は呪はれたる状態に陥らなければならなかつた。「其の權威は拒否せられ、其の結論は攻撃せられ、其の議論は Miltonの『地獄の縁』(Paradise Lost, iii. 495.)に於て行はるゝ論辯に比せられ、其の實際的提言はラビュータ(Swift)のGulliver's Travels. 中に見ゆる假想的浮島)の哲學者の其れに比して多く優る所なきものと思料せられ、而して其の權威者の一人は輕蔑的に自己をサツルヌスに委す可きことを勸告せられた。賢明なるが如くに觀えた書典は屢々エペソの改宗者によつて燔盡祭を行ふの用に供せられたる奇書に比せられた」。(Rogens, Economic Interpretation of History, 2nd. ed., 1891, preface, pp. vi—vii.)

### 三

斯くの如くして恰も獨逸の歴史派が經濟學界に優勝せるの觀ありし時、幾多の有力なる經濟學者は殆んど同時に英、瑞、澳、米に輩出して謂ゆる「純粹經濟學」なるものゝ存在を力強く要求したのである。

英の William Stanley Jevons は歴史的研究が、社會科學に在つて極めて重要な意義を有することを認め、歴史的基礎の上に社會科學の一新分科を設立せんことを欲すると共に、現在の經濟科學を改めて歴史的科學たらしめ、其の發達の中道に之れを破壊することを拒んだのである。(Theory of Political Economy, 2nd, ed., 1879, p. 21.)。瑞の Marie Esprit Léon Walras は純粹經濟學(économie politique pure)を以て一方に於ては應用經濟學(économie politique appliquée)、他方に於ては社會經濟(économie sociale)と區別するに多大なる注意を拂つた。而して奧太利學派も亦た抽象的に經濟學を論述するの必要を強調するものである。同學派の基礎を與へたる Carl Menger は特に理論的經濟學を、一方に於ては經濟史及び統計學、他方に於ては實驗經濟學より區別するの必要を主張する。而して彼れは當時全盛なりし獨逸學派を難じて、抽象的方法の見地を誤解し、且つ歴史的方法に對して過大なる意義を與ふるものと做した。斯くて歴史主義の超梁より解放せられんとする經濟學の奮闘は開始せられたのである。(F. Lifschitz, Die historische Schule der Wirtschaftswissenschaft, 1914, S. 1.)。

Menger は古典的經濟學を改造せんことを企圖した。英國古典學派によつて構成せられたるが如き經濟理論は決して満足なる經濟的諸法則の科學を吾人に寄與するものではなかつた。(Untersuchungen über die Methode der Socialwissenschaften u. d. der politischen Oekonomie insbesondere, 1883, S. 15.)。然しながら獨逸の歴史派經濟學者が謂ゆる自利の獨斷説の使用を目して「完全なる經濟的實在」に對して攪亂

的對立を成すものと做すは誤解である。(Ibidem, S. 79.)。彼れは國民經濟の歴史的、理論的及び實際的科學の間に存する本質的相違を述べて、經濟學を以て歴史的科學と觀んとする者の誤謬を指摘する。

#### 四

「現象界は二個の本質的に相違せる見地よりして考察せらるゝを得可きものである。吾人が科學的興味の対象は其の時間及び空間上の地位並びに其の相互に對する關係に於ける具體的諸現象たるか、若しくは具體的諸現象に於ける變化の過程中に再現する現出形態 (Erscheinungsformen) なるかの孰れかであり得る。第一の傾向が優力であるならば、其の探求は具體的事實、若しくは更らに正確に云へば、個別的事實に關する知識に對するものであり、後の探求は諸現象に在つて一般的なるものに對するものである。従つて、吾人は這個二大部門の科學的知識を有する。吾人は一を個別的、他を一般的と稱するを得可きである」。「具體的現象が甚しく多様なるに拘らず、偶然の觀察すら各個の場合に特有なる別個の現出形態も存することなきを示す。加之ならず、經驗は吾人に教ゆるに、一定の現象が時によつて其の程度を等しうせざるも、兎に角一定の精確さを以て再現することを以てする。吾人は是れ等の現出形態を標型と云ふ。斯くの如きは具體的現象間の關係に於ても眞なるものである」。「諸現象の標型及び標型的關係が人世に取つて無限の價值あるは具體的現象其の者の知識に譲らざるものである。現出形態の知識



なくんば、吾人は無数の具體的現象を捕捉するの力も、之れを吾人の思想中に於て系統立つるの力をも有せざる可きである。這般の知識は現實界の凡ゆる包括的理解の必要條件である」。斯くて Menger は經濟的界域に關する知識の個別的と一般的標型とを區別する。經濟史及び經濟統計學は前者に屬し、理論的國民經濟學 (die theoretische Nationalökonomie) は後者に屬する。彼れは更らに是れ等のものに加ふるに謂ゆる實際的科學、若しくは技術學 (die Kunstlehre) の大集團を以てする。是れ等のものゝ任務は事物が其の遵守によつて成就するに至らしめらる可き原理を秩序立つるに存する。斯くて經濟學の界域に於ては第一に歴史學及び統計學、第二に理論的國民經濟學、第三に經濟技術學が分立しなければならぬ。(Ibidem, S. 10.)

Menger は次いで經濟學の明確なる本質及び一般科學の範圍内に於ける其の地位の誤解より生ずる誤謬を指摘する。歴史及び統計の任務は一定人民及び國家の具體的行爲、事變、施設並びに具體的文化的發達及び狀態の研究であるに反し、理論的社會科學の任務は社會的現象の現出形態並びに其の連續及び共存等の法則を吾人に示すに存する。従つて理論的國民經濟學の任務は明かに經濟的現象の間に於ける反復的現出形態、例へば、交換、價格、地代、供給、需要の一般的性質若しくは斯くの如き現象間の標型的關係、例へば、供給及び需要の増減が價格に及ぼす效果、増加しつつある人口の地代に對する影響等を決定するに反し、歴史的經濟學の其れは特殊の經濟的現象の本質及び發達、例へば、一定人民若しく

は一定民族の産業、一定經濟制度の狀態及び發達、一定經濟的地域内に於ける價格若しくは地代の發達等を吾人に顯示するに存する。斯くて理論的經濟學と歴史的經濟學との間には根本的相違が存する。全然是れ等科學の眞の性質を誤解するに非ざれば、兩者の混同を喚起し、若しくは其の一を以て他に代らしむるを得可しと做すの意見を生ずるの餘地を與ふること能はざる可きである。恰も理論的經濟學が斷じて經濟史若しくは經濟統計に代ること能はざると等しく、其の反對に前掲兩科學の界域に於ける最も包括的なる研究と雖も、經濟科學の體系中に缺陷を殘すことなくして概括的經濟理論に代らしめらるゝことを得なす。(Ibidem, S. 13.)

然るに一系の經濟學者は事實彼れ等が經濟學の界域に於ける歴史的研究を行ひつゝあるに拘らず、自ら國民經濟學を取扱ひつゝありと想像したのである。斯くの如き著大なる誤謬の生じたる所以如何。科學的研究の目的は單に現象の認識のみに止らずして、又た其の理解 (Verständnis) に存する。或る客體の心象が吾人の意識中に形成せられたる時、吾人は之れを認識する。吾人が其の存在及び其の特殊の組成 (So-Sein) の理由を看出したる時、吾人は之れを理解する。而して吾人は二個の方法に於て社會的現象の理解に到達することが出来る。吾人は歴史を通じて具體的現象の顯るゝ具體的事情を吾人の意識に導くによつて之れを理解する。具體的社會現象の歴史的な理解は決して唯一の科學的理解の方法ではなない。之れに對して其の同儕たる社會的現象の理論的理解が對立する。吾人が一特殊現象の特殊の由來を

追求せる時、即ち吾人が其の發生するに至りたる具體的事情と其の適當なる制限及び其の他のものを克く明かにし得たる時、吾人は之れが歴史的知識を有するものと稱せらるゝことが出来る。吾人が或る具體的現象を連續若しくは共存の一定法則若しくは合律性の一特殊の場合として理解し得たる時、即ち吾人が或る一般法則の例證として之れが存在の理由及び其の本質の特性を説明し得たる時、吾人は其の理論的知識を有するものと稱せらるゝことが出来る。従つて一般社會現象及び特に經濟的現象の歴史及び理論の兩者は吾人をして社會的若しくは特に經濟的現象の一定の理解を有せしむるものである。這般の理解は孰れの場合に於ても獨自なるものである。兩者は本質的に相違する。(Ibidem, p. 15-17.)

吾人は總べて或る種類の具體的現象の理解と這般の理解の科學的基礎、換言すれば、其れ其れの現象の理論若しくは歴史と經濟理論とを劃然區別しなければならぬ。縱令ひ或る人が如何に周到なる注意を以て具體的經濟現象の理論的理解に到達せんと試むるも、彼れは是れに由つて國民經濟の理論家たるものではない。理論其の者を顯示するの任務を行ふ者のみが惟り斯くの如く稱せらるゝの資格あるものである。理論の助けによつて具體的現象を理解し、這般の理解に對する手段として理論的國民經濟學を適用し、經濟史に對する補助として理論的國民經濟學を使用するが如きは總べて皆な歴史家の事に屬するものである。Menger は這般の所論を以て歴史的科學として理論的國民經濟學を觀るの點に於て獨逸の歴史派經濟學者の陥れる誤謬の本質を明にするを得可きものと思惟した。歴史學派は經濟的領域に於け

る具體的事實及び發達を理解するが爲めに經濟史若しくは經濟理論を利用せんと企圖しつゝあるの際に、經濟學の理論を建設し表明しつゝあるものと思惟したのである。恰も之れと等しき重大なる誤謬は理論的國民經濟學を經濟政策、即ち經濟的活動を正しく指導し進捗する準則の學と混同するに存する。這般の誤謬は化學を化學的技術學と混同し、生理學及び解剖學を醫術及び外科術と混同するに比す可きものである。經濟政策の方法を理論的經濟學の方法に代ゆるを得ざるは恰も理論的經濟學の方法を歴史若しくは統計學の其れに代ゆることを得ざるに等しきものである。(Ibidem, S. 93)。

## 五

Shmoller は其の Die Schriften von K. Menger und W. Dillhag zur Methodologie der Staats- und Sozialwissenschaften, 1883. (Jahrbuch für Gesetzgebung, VII, S. 975 ff.) に於て Menger の所論を論じてゐる。Menger は固より一科學の歴史家が其の大理論家に非ずと做し、歴史的傾向が概括及び理論に對して甚しき警戒を強要するの傾向ありと做す其の主張に於て全然正しきものである。然しながら斯くの如きものはヴェエスタ神の仕女の自然的罪過である。單に偏執によつてのみ我れ等人間は何物かを完成するを得るのである。舊抽象的國民經濟學は偉大なる事業を完成したる後、其の眞の強味を失つたのである。蓋しそは其の結果をして總べての現實性を缺ける抽象的構案中に植付けんとするに甚しきに過ぎ

たるが故である。知的結核病の犠牲と爲れる此の抽象的傾向より免るゝの道はない。吾人に取つては計畫を變更することが必要である、而して必然其の端緒は全然新たなる立場より事物を觀察するによつて行はなければならぬ。歴史的傾向の行へる所のものは總べて舊理論が或る永續的なものを成就せる限りに於ては、其れ自體亦た舊理論の基礎の上に立つものであつた。將來に於て新時代は國民經濟學に對して來るであらう。然しながら、そは古き獨斷主義の許<sup>あまた</sup>多度び蒸溜せられたる抽象的理論を更らに其の以上に蒸溜するに非ずして、今や取り纏められたる歴史的敘述的及び統計的資料の全體に對して完全なる價値を與ふるによつてのみ生ず可きものである。(以上は其の後彼れの Zur Literaturgeschichte der Staats- und Sozialwissenschaften. 中に再刻せられてゐる。Ibidem, S. 299.)

Menger は更らに一千八百八十四年一友人に與ふる十六通の書翰の形式を以て世に出せる其の Die Irrthümer des Historismus in der deutschen Nationalökonomie. に於て「外國の侵略者の如く、歴史家は吾人に對して彼れ等の言語及び彼れ等の習慣——彼れ等の用語及び彼れ等の方法學——を強ひ、總べて彼れ等の特質と適合することなき研究の方向と用捨なく戦はんが爲めに我れ等の科學の領土に侵入した」と稱してゐる。(Ibidem, Vorwort, S. vi.)。何人と雖も經濟史其の者が經濟的現象を理解するが爲めに有用なるを疑ふものはない。而も斯くの如きは伯林の「年刊書」の出版者 (Herausgeber des Berliner Jahrbuches) を満足せしむるものではない。彼れは其の歴史的統計的微細畫 (Historisch-statistische Kleiner-

malerei) に従事せんことを欲し、而して猶ほ經濟學、殊に又た國民經濟の理論の訂正者として認められんとする其の主張を抛棄することがないのである。(Ibidem, S. 26, 27.) (尙ほ Menger 及び Schmoller の方法論的論争に就いては Eugen von Philippovich, Über Aufgabe und Methode der politischen Ökonomie, I. B., 1886, S. 12—13, 18, 31, 39, 45—46. 其の他参照)。

然しながら Schmoller は果して極端なる歴史主義 (Historismus) に陥れるものであらうか。彼れは初め演繹法に對して極めて些末なる地位を與へたに過ぎなかつたのであるが、而も全然之れを排斥するものではなかつた。歸納と演繹とが共に經濟學に必要なは恰も左右の足が歩行に必要ながごとくである。而も演繹法は舊經濟學派の行へるが如き抽象と結合せる限りに於てのみ排斥せられる。(Handwörterbuch, a. a. O. S. 576.) 而して彼れは其の Grundriss der Allgemeinen Volkswirtschaftslehre. に於ては資料の複雑なるに従つて國民經濟學的觀察の單一なる方法の存し得ざることも亦た當然であると觀た。彼れは唯だ資料は思想を伴ふことなかも尙ほ一の相對的價值を有するものであるが、資料を伴はざる思想は單に妄想 (Chimäre 獅頭羊身龍尾の怪獸) たるに過ぎざるものと思料するのである。(Ibidem, I., 1901, S. 103.)

而して Menger に次いで奧太利學派の代表者の一人たる Emil Sax の態度は其の先輩に比して論争的態度を減じた。Friedrich von Wieser に至れば其の論調は更らに穩和なるものと爲る。彼れに従へば、獨

逸に於ける歴史派、及び往々にして抽象學派と稱せらるゝ奧太利學派は一見せる所よりも遙かに近接なる關係を有するものである。兩派は共に時代精神に従つて思辨的理論を排して、觀察の原野の上に其の最高の月桂樹を求むるものである。(The Austrian School and the theory of Value, Art. in the "The Economic Journal," vol. I, 1891, p. 109.)

現代は無數の經濟史的研究が完成するに至るまで満足なる經濟學の理論を形成せんとするの事業を抛棄せよと云ふ勸告に従ふことが出来なかつた。經濟史の研究の重要なるは云ふまでもなき所である。然もそは本源の理論に代る可きものではなかつた。正しく思料せられたる歴史的方法是決して正しく思料せられたる抽象的方法に對抗するものはなかつた。Schmoller 其の人は一千九百〇九年を以て公にせる前掲「國民經濟學原論」の第二卷に於て悲しげに、人類の經濟生活が一定の畫一性を有し、若しくは畫一なる發達の痕跡を示すや否や、又たそが何等かの發達を行ひつゝあるや否やを言明すること能はずと説きてゐる。(Zweiter Teil, 1904, S. 653.) 然も社會的發達の法則を確立せんとする進化的經濟學は新たなる抽象學派によつても實證的經濟科學の一分科として承認せられた。他方に於て獨の後期歴史派に屬する Karl Bücher を以て觀れば、國民經濟學の任務を以て交易的經過の本質及び關係を解明するに在りと做す者を以て誤謬に陥れるものと認め、經濟的形態と其の歴史的變遷の敘述を以て満足する者を以て正當なりと做すは重大なる謬見である。斯くの如きは一世紀以上に互れる科學的勞働を抛棄すると等

しく、又た吾人の經濟的現在を全然誤解するに等しさものである。(Die Entstehung der Volkswirtschaft, 5. Aufl., 1906, S. 149—150.)。理論的經濟學は一定時に於ける一定經濟的現象の代表的本體を捕捉し、純乎たる學理的攻究によつて、其の相互の關係並びに其の間に通ずる法則を明かにするを以て目的とするものと看做すによつて學界に確然たる存在を有するに至るのである。そは無限の範圍を有する無用不確實なるものに非ずして、範圍の限定せられたる最も確實且つ有用なるものである。

高橋 誠一郎